

よぬだ ところどころ



第三二号

ヨナダーが下米田・牧野の色々な見どころを紹介するよ

森武蔵のご落胤

戦国期金山を支配した森長可のお話

「牧野のシモヤというところに」「兼山城の森武蔵守の下屋敷があった」「ここで、おそばめからご落胤が生まれた時」「武蔵守はこの刀を遣わすといって」「一本の脇差を与えた」「この刀は、森八十八家に残っていたが、戦争中に失われたという」

下屋(シモヤ)の地名起源

発音は「シモヤ」であるが、多分「シモヤシキ」の縮まったものであるろう。「下」に対応するのは、「上」である。即ち、「上屋敷」との対で付けられたと思われる。この上屋敷は、恐らく「城の御殿屋敷」を指すものであろう。

下屋の場所



がる場所に段丘崖がある。段丘崖下には少量の地下水が湧出する。少し下流の「花之下」にみられるように集落が形成されるほどではないが、少数の人が短期的に留まることは可能である。また、その背後の河岸段丘面は原野として人の手が入らない広大な場所であった。江戸時代には「御林」として尾張藩に支配されており、廃藩置県後に国有地として収納された。さらに、産褥の穢れを避け得るこの場所は、防御にも絶好な場所、特に森家ゆかりの子を産む産屋として利用されたのもっともであると思われる。

注 戦国期の武家は有能な後継者をつくることと、所領を守り一族を繁栄させることが目標であった。高名な信長も家康も多様な女性との間に多くの子をなしている。また、後継者が幼少期に病気やケガで亡くなることも多々あった。また、つい最近までは、日本は宗教儀礼の世界であり、無事に子供が生まれることを神仏に祈願した。正妻の他に「おそばめ」は多く、おそばめも殿の子どもを持つことを念願し、神社仏閣に祈願をおこなった。武家が自分の子であるという証拠に物品を与えて証明とする習慣があり、特に男子の場合は「紋章の入った刀、脇差」を与える風習があった。津田左右吉も脇差を与えられているし、坪内逍遙も袴と脇差を着用していた。